

..... 会 告

平成 15 年度総会および春季講演会のお知らせ

平成 15 年度通常総会（第 124 回）ならびに春季講演会を下記により開催いたします。

会 場 東京地学協会講堂

開催日 平成 15 年 5 月 24 日（土）

総 会 12：50～

議題：第 1 号議案 平成 14 年度事業報告並びに収支決算承認の件

第 2 号議案 平成 15 年度事業計画並びに収支予算承認の件

第 3 号議案 役員・評議選任の件

講演会 14：20～16：00

加藤碩一（産業技術総合研究所 東北センター所長）「東アジアの地質災害 その現状と対応」

〔要旨〕 国連の提案した「国際防災 10 年（IDNDR）」へのわが国からの貢献の一環として演者が主導して関係各国や国際機関との連携のもとに編纂した「Eastern Asia Geological Hazards Map（1：7,000,000）」について紹介する中で、当該地域の特徴的な地質災害の現状と対応について述べる。また、GIS 化された本図（CD-Rom 版）のデモンストレーションを行う。

・平成 15 年度第 1 回評議員会（現役員出席）は 12:15～12:45

・平成 15 年度第 2 回評議員会（新役員出席）は 13:45～14:15

いずれも会議室で開催されます。

地学クラブのお知らせ

下記により地学クラブを開催いたします。多数ご参加くださるよう、お待ちしております。

なお、講演終了後、1 時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けますので、ご自由にご参加ください。

・6 月 20 日（金）14：00～15：30

「風成塵・レスからみた最終間氷期以降のモンスーン変動」

成瀬敏郎（兵庫教育大学）

第四紀には、氷河や沙漠で生産された碎屑物質が風成塵となって東アジア各地に運ばれ、レスや土壌の主母材になった。風成塵はジェット気流や冬季モンスーンの、流水物質は夏季モンスーンの挙動を示す高精度分解能の気候変動指示物であると考えられる。日本列島では最終間氷期に流水物質の堆積が卓越したが、最終氷期には激減し、かわって北方大陸から飛来する風成塵の堆積が多くなった。完新世には再び流水物質が増加し、風成塵は中国内陸沙漠から飛来するようになった。

・7 月 18 日（金）14：00～15：30

「並列直線の窓から見た日本列島」

蔵田延男（全国地下水利用対策協議会特別顧問）

30 年来、自然放射能を水や温泉のために利用しつつつけてきていたが、その都度地形図上に並列直線が現われるのに興味をもっていた。そこで別の視点から、図上でよみとれる三角点、標高点、付近で高いとみられる地点などを結んで、図葉毎に並列直線の示す固有の方向を探り求めた。全国 1/50,000 地形図 1,200 枚の作業を終えてみると、たとえば礼文～利尻とか種子ヶ島～屋久島とかの

場合にはむろんのこと、浅間と榛名の仲をとりもつ霧積川の断層あるいは名阪国道沿いの矢羽根構造、とくに六甲東部、琵琶湖南東側、島根半島～松江などでは、2方向がクロスするのが浮き彫りになってきたりしている。北部九州では、30°東方向の並列直線が行儀よく並んでいる九州全体の中で、ここだけがとくに食い裂かれているかたちになっている。〔以上全体および部分部分について図示解説を行う予定〕